



ちまち・どんどん代表  
川崎貞江さん (邑久町尾張)

『ちまち・どんどん』のメンバーは、みんな子どもたちが大好きです。読み聞かせの訪問前には、息継ぎや声の強弱などしっかり練習して行きます。

「まだ、読んで」とか「もう1回見たい」とリクエストされると、うれしいですね。子どもたちからいつも元気をもらえ、その笑顔に満足しています。



おそろいのエプロンで活動する『ちまち・どんどん』の皆さん

ます。自己紹介の後、絵本を読み始めると、子どもたちは、すっかり絵本の世界へ。じっと真剣なまなざしで、聞き入っています。  
2、3冊の読み聞かせが終わわり、「ありがとう」とお礼のあいさつをすると、子どもたちはせきを切ったように、「○○のおばちゃん」と、メンバーに抱きつき、握手を求めます。「また、来てね」「今度は、何を読んでくれるの」と大人気。「子どもたちと関わりを持っていたい」と読み聞かせを始めたメンバーたち。「絵本の時間が楽しくなってほしい」「絵本を好きになるってほしい」と思う気持ち、きっと子どもたちに届いていることでしょう。



一人ずつ自己紹介するスタッフ

すっかり絵本の世界に入った子どもたち



あいあい保育園園長  
田淵雅子さん (牛窓町鹿忍)

『ちまち・どんどん』さんは、子どもたちの目線に立って、本を選んだり読み聞かせをしたりしてくれます。子どもたちの聞き方も、回数を重ねるごとに成長がうかがえ、読む側と聞く側の信頼関係もできていくと思います。

子どもたちは、絵本の楽しさを教えてくれる『ちまち・どんどん』の皆さんが、園に来てくれるのをとても楽しみにしています。

子どもたちを思い絵本選び  
邑久町総合福祉センターのボランティアルームで、毎月ミーティングを行うメンバーの皆さん。翌月の訪問メンバーの調整や「子どもたちに何の本を読んで聞かせてあげようか」と絵本の選択などを行っています。メンバーの皆さんは、子どもたちが興味を持ちそうな、季節感も感じ取れる絵本を話し合っって選びます。それは、いつも子どもたちのことを思う思いやりの気持ち。  
街で会った時、子どもたちから「ちまち・どんどんのおばちゃん」と声を掛けられるメンバーたち。今日も絵本を片手に、子どもたちの笑顔に会いに出掛けます。



終わりのあいさつの後、せきを切ったように「おばちゃん」と抱きつく子どもたち

子どもたちの笑顔がたまらない  
おはなしサークル『ちまち・どんどん』  
絵本を持って保育園を訪問  
「こんにちは。みんな元気だった？ 今日日は『ちまち・どんどん』のおばちゃんが、絵本を読みに来ましたよー」。市内の保育園などを訪問し、子どもたちに絵本の読み聞かせをしているおはなしサークル『ちまち・どんどん』。  
子どもの笑顔が大好きな会員22人が、元気に活動しています。市内の6保育園や3支援センター、公民館やデイサービスなどで、毎月12回程度絵本の読み聞かせをしたり、依頼があれば訪問し、お話し会などをしたりしています。  
絵本の時間が楽しいと感じてほしい  
保育園の読み聞かせの時間には、0歳から5歳児たちがそれぞれの部屋で、『ちまち・どんどん』の皆さんを待っています。部屋に入ると、待ち構えた子どもたち。「今日はどんな絵本を読んでくれるのだろう」ときらきら目を輝かせている。

